LEDの明るさ、56製品で表示を下回る

販売した12社に措置命令

消費者庁は6月14日、12社が販売していた「LED電球」計54製品について、表示されていた明るさが実際には得られなかったとして景品表示法に基づく措置命令を行った。12社は商品パッケージなどにおいて「白熱電球60W相当の明るさ」などと表示していたが、同庁が検証したところ表示を下回る結果となったという。

日本工業規格（JIS）では、白熱電球の40W型の全光束は485ルーメン、同じく60W型は810ルーメンと規定されている。白熱電球はほぼ全方向へ配光されるが、LED電球は一定方向への配光が強い。このようなLED電球を60W型白熱電球の代替品として使用した場合、一定方向に限れば白熱電球と同等の明るさを得ることも可能である。しかし空間全体を照らすために取付けている場合、少なくとも白熱電球と同等の全光束でなければ、同等の明るさを得ることはできない。同庁の調査によれば「白熱電球60W相当の明るさ」と表示していた製品のうち、一つは49・4%の明るさしかなかったという。

12社に命じられたのは「景品表示法に違反するものである旨を、一般消費者へ周知徹底すること」「再発防止策を講じて、これを社内に周知徹底すること」「今後、同様の表示を行わないこと」など。

措置命令を受けた12社

アガスタ（東京都渋谷区）、エコリカ（大阪市天王寺区）、エディオン（広島市中区）、オーム電機（東京都豊島区）、グリーンハウス（東京都渋谷区）、恵安（東京都豊島区）、光波（東京都練馬区）、コーナン商事（堺市西区）、スリー・アールシステム（福岡市博多区）、セントレードM.E.（東京都台東区）、タキオン（東京都目黒区）、リーダーメディアテクノ（東京都台東区）

ソーラーパネルも「借りる」時代へ

広友リース

事業開発推進部
ニュービジネスグループ グループリーダー
斉藤　竜太氏

いわゆる「全量買取制度」の概要も決定し、本格的な普及へ進む再生可能エネルギー。助成や補助制度などのさらなる整備にも期待が高まるが、初期導入費用や導入後の効果など依然として課題も残る。こうしたなか、太陽光発電装置のレンタルサービスに注目が集まりつつある。

広友リース（東京都港区）が展開する「太陽光発電システムレンタル」はその名のとおり、太陽光発電システムをレンタルで導入できるサービス。工事現場やイベント会場、仮設の事務所など一時的な使用のほか、もちろんビルにも導入可能。ほとんどのメーカーの製品が導入できるため、恒久的に設置する前の試験的な導入にも適している。太陽光発電システムには発電して余った電気を売る「系統連携システム」と、発電した電気を使い切る「独立系システム」があるが、いずれものシステムでも設置できる。

レンタルの導入で気になるのが購入と比較しての損益分岐点。製品や契約にもよるが、同社のサービスでは2年～3年の使用なら購入するより得となる場合が多いという。レンタル契約したものを購入することもできるため、しばらく使用してみて効果を見てから購入することも可能だ。蓄電池などのレンタルも実施しており、BCPに有効な非常用電源システムの構築もできる。

レンタルはリースや購入と異なり資産として計上されることもなく、短期間から導入できる。また、ビルの屋上などでの取り付け・取り外しも簡便なよう、アンカーやベースが不要なシステムも採用している。電力需要の増加する季節のみ導入することも可能で、東日本大震災の被災地でも導入実績があり、非常用としても実証済みといえる。

同社事業開発推進部の斉藤竜太氏は「電力需給状況が見極めづらい昨今、太陽光システム導入に『借りる』という選択肢も検討してほしい」と話している。

▶被災地・石巻でも採用

風力発電装置メーカーの株取引で逮捕者

省エネ・節電への関心の高まりとともに再生可能エネルギーへの注目が集まるなか、風力発電装置メーカーの未公開株がからむ事件が発生した。事件に使われたのは特徴的なスタイルの風車で知られるループウイング（東京都港区）の株式。5月31日には綾部容疑者らが、金融商品取引業の登録がないにもかかわらず「今のうちに買えば儲かる」などと同社の株の購入をもちかけ、平成22年2月から昨年6月にかけて64～82歳の男女7人に1580株を計6070万円で販売したとしている。千葉県警は全国で数百人が計数億円の被害を受けたとみて捜査を続けている。

投資会社、GIDソリューションズの会長・綾部登容疑者ら8人が逮捕されている。さらにループウイング社長・吉田穣容疑者らも逮捕されたがこちらは21日に釈放。

▶その風向きは…

既存空調機の性能を蘇らせる添加剤

エコテック

エネデュース事業部
徳永　新一郎氏

ビル内で使用されている電力のうち実に50%近くが空調関連によるものとされているのは周知のとおり。夏季に向けてビルの節電を検討しているオーナーも多いが、比率からいっても大きな効果が期待できる空調の節電は必須項目といっていいだろう。

しかし運用改善による節電はすでにやりつくされた感が強く、設備改修はある程度の初期投資をともなうものがほとんどだ。こうしたなか発表された「エネデュース」は、空調機の経年劣化と消費電力を抑えるシステム。設備にもよるが数万円以内で施工できるため、早期の償却が可能だ。

空調機は一般的に、経年劣化とともに消費電力が増加していく。その割合は毎年4～5%といわれているが、設置後10年を過ぎるころから急激に増加しはじめる。その主な原因となっているのは空調の心臓部にあたるコンプレッサーの劣化だが、「エネデュース」はこの劣化にストップをかけることが可能だ。あまり知られていないが、エアコンのコンプレッサーには潤滑油と冷媒が共存している。この潤滑油に「エネデュース」を添加することで、コンプレッサーの性能が甦るのだという。

具体的には「エネデュース」に含まれる金属表面修復剤が、長年の運転による磨耗ではがれた金属面を再結晶化させて圧縮効率をスムーズにし、「設定温度に達するまでの時間」を短縮することで省電力化につなげるというもの。電力使用量の削減効果は3～6年間使用した空調機で5%～15%、6～9年間の空調機では10%～25%という数字がでており、室外機の振動やノイズを低下させる効果や空調機器の寿命を延長させる効果も期待できるという。

家庭用・業務用を問わずほとんどの空調機・冷凍機に施工可能で、東京・大手町のパルビル（プロミス本社）で15・2%、太陽テクノリサーチ（石川県白山市）本社ビルでは8%、レオパレスが運営している集合住宅では計36・8%という節電を実現しており、効果は実証済みといっていいだろう。「エネデュース」による効果を保証する制度も用意されており、安心して導入できそうだ。

◀短時間で施工可能

企業の移転は加速傾向？

首都圏の拠点集約を発表

TOTO

景気の先行きが不透明な状態が続くなか、企業における業務拠点の集約・再編機運が高まりつつある。衛生設備機器製造大手のTOTO（北九州市小倉北区）は6月14日、首都圏にあるオフィスを東京都港区の「汐留ビルディング」に移転集約すると発表した。

同社は現在、東京都港区にある「虎ノ門ビル」、同じく世田谷区の「桜新町ビル」などに拠点を設けているが、これらを集約させることでグループ内のコミュニケーション強化や業務効率化、さらに震災対応力強化やセキュリティ対策強化といったインフラ構築などが実現できるとしている。現在同社が所有している不動産については売却を含めた有効活用策を検討していくといい、近隣のビル市況に影響を与える可能性も充分考えられる。

今回の移転集約は、今年11月に実施する「TOTOテクニカルセンター」と東京支社のJR南新宿ビルへの移転、「TDY東京コラボレーションショールーム」のオープンに続く首都圏再編となる。これにより、同社がここ2年にわたり展開してきた長期経営計画「TOTO Vプラン2017」の革新活動の一つである「マネジメントリソース革新」における「資産の効率的利用による財務体質の改善・スリム化」を進め、平成29年度までにROA（総資産利益率）10%を目指すという。

入居を予定している「汐留ビルディング」が立地するのは東京都港区海岸1丁目。フロアは22～24階の計3366坪で、来年6月の移転を予定している。

▶移転先の「汐留ビルディング」

森ビル「ライトダウンジャパン」に参加

森ビル

森ビル（東京都港区）は、6月21日～7月7日までの間、保有するビルなどの照明を減灯するキャンペーンを実施している。環境省が推進する照明電力削減の取り組み「ライトダウンジャパン2012」に賛同して行うもので、同社が管理する44棟においてサインなどの装飾照明やライトアップなどの景観照明といった共用部の照明を消灯するほか、オフィスや商業店舗の減灯もすすめる。期間中に削減できる照明電力量は約4万3000kWh、CO2排出量約16・1トンの削減を予測している。

「ライトダウンジャパン2012」は環境省が実施している地球温暖化防止のためのキャンペーンで、平成14年より行っている。ライトアップを実施している施設や家庭の照明を消灯するよう呼びかけ、ライトアップに慣れた市民に対して日ごろいかに照明を使っているかを実感してもらうとともに、日常生活における温暖化対策への動機付けを目的としている。また6月21日および7月7日を特別実施日とし、キャンペーン参加団体や企業が午後8時～10時の間消灯する。

同社でも特別実施日に就業エリアを消灯するほか、各テナントにもキャンペーンへの協力を依頼。オフィスエリアでの消灯・減灯を行うとともに、入居する店舗でも一部照明の消灯やキャンドルの設置などが行われる。

また六本木ヒルズの一部店舗では、仕事を早めに終えてゆっくり食事を楽しむための特別メニューも用意。森タワー屋上の展望台「東京シティビュー『スカイデッキ』」では、ライトダウンにより暗くなった都心で星空を楽しむ観望会を実施する。

◀屋上での観望会も